



ヤマラッキョウ

1、バックホーによる作業—3(P地点作業報告—1)

P地点は森になっていたところでした。西側と南西側はN地点と接しており、森の林縁部にあたります。南東側はM地点と接しており、地形は上流に向かって高くなっています。下写真左はP地点の中央部で木の抜根を行っています。地山は基本的に礫層なので、木の根は地下に伸びず、地表面を這うように広がっています。根に抱き込まれた土は茶色く乾燥しており草地として復元されると予想しています。

下写真右はF地点の旧水田部分で木の抜根とネザサの根の層を除去しているところです。旧水田部分は耕作土が残っており、柔らかい泥質の土が厚く堆積しています。手前には枯れたガマが見えます。



P地点抜根作業（南から：2019年2月5日） **F地点旧水田部分の抜根作業（東から）**

右写真はM地点のミズゴケを除去しているところです。ミズゴケは厚いところで40cm程あり、ネザサが侵出していました。ミズゴケは水量が多いところに分布していますが、剥ぎ取



M地点ミズゴケ除去作業（2019年2月7日） **ミズゴケの堆積状況**

った後を観察すると水量はかなり少なく、礫面になりましたが、水が地表面に現れることはありませんでした。剥ぎ取ったミズゴケは湿生植物の発芽を確認するために湿地周辺部に積み上げてあります。この2か月ほどほとんど雨が降っていません。雨が降れば水量が増し、湿地らしくなると思います。次号でP・M地点の作業の続きを報告します。

2、2018年のナガバノイシモチソウ-2

1) 自生個体数の変化

2018年のナガバノイシモチソウは今年も個体数や開花数が順調に増えました。個体数は、毎年7月末日前後を基準日としていますが11,487個体になり、今年の前年の2倍にはなりませんでしたが、**平成23年度の約40倍**になりました。その後も個体数は順調に増え、9月5日には、12,089個体になりました。観察回数は116回で昨年よりもかなり増えました。

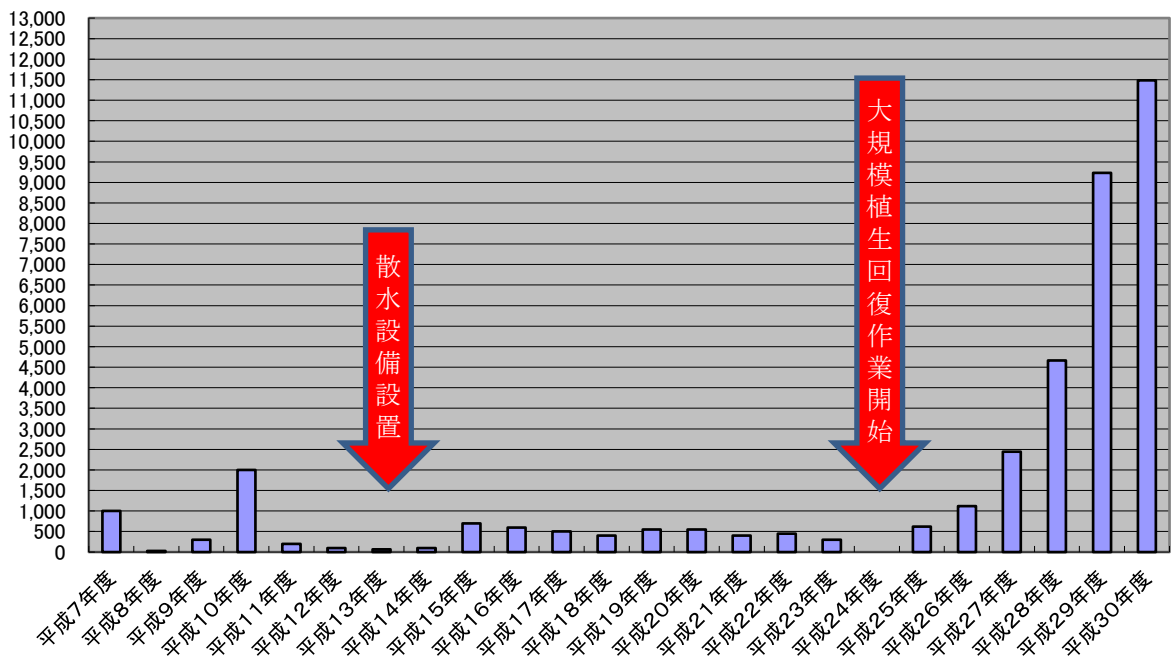
現時点で個体数の増加は右肩上がりです。今後も増加が続くと予想できません。しかし、いずれ増加率は徐々に減少して個体数は飽和状態になり、以後は増減を繰り返しながら推移すると思われます。また、指定地内全体の自生状況からは、最終的に自生数は少なくとも100倍(30,000個体)程度までは増加すると予想しています。

自生個体数、最高・平均開花数一覧

年 度	自生個体数	最高開花数	平均開花数
平成23年度	300個体	135輪	35輪
平成24年度	推定300個体	145輪	55輪
平成25年度	622個体	170輪	73輪
平成26年度	1,120個体	374輪	116輪
平成27年度	2,444個体	471輪	144輪
平成28年度	4,664個体	817輪	307輪
平成29年度	9,233個体	1,436輪	587輪
平成30年度	11,487個体	4,320輪	1,169輪

*平成24年度は自生個体数の記録なし

ナガバノイシモチソウ自生個体数の変化(基準日:7月末)

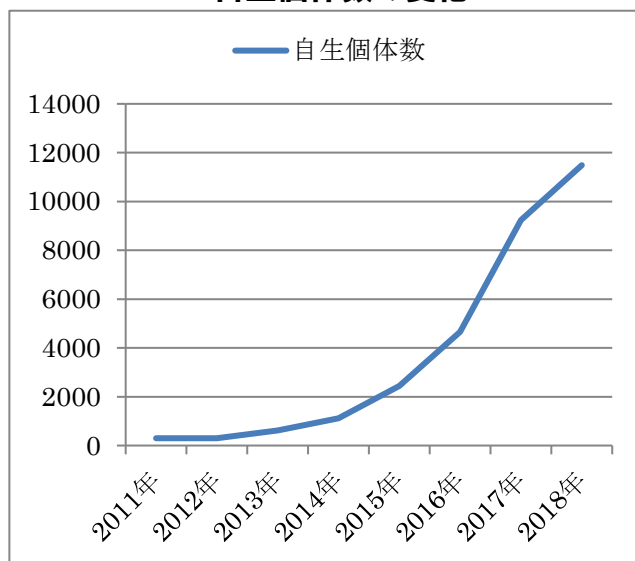


2) 開花数の変化

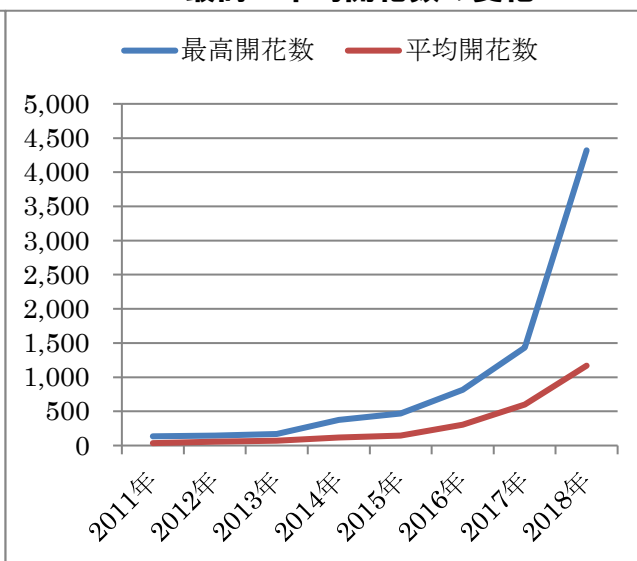
今年(平成30年度)はナガバノイシモチソウの開花数が急激に増加しました。これまで開花数の増加率

は個体数の増加よりも低くなっていました。大規模植生回復作業を開始した平成 24 年度には、最高開花数が 145 輪、平均開花数が 55 輪でしたが、平成 30 年度には最高開花数が 4,320 輪、平均開花数が 1,169 輪になり、最高開花数は**約 30 倍**に、平均開花数は**約 20 倍**になりました。

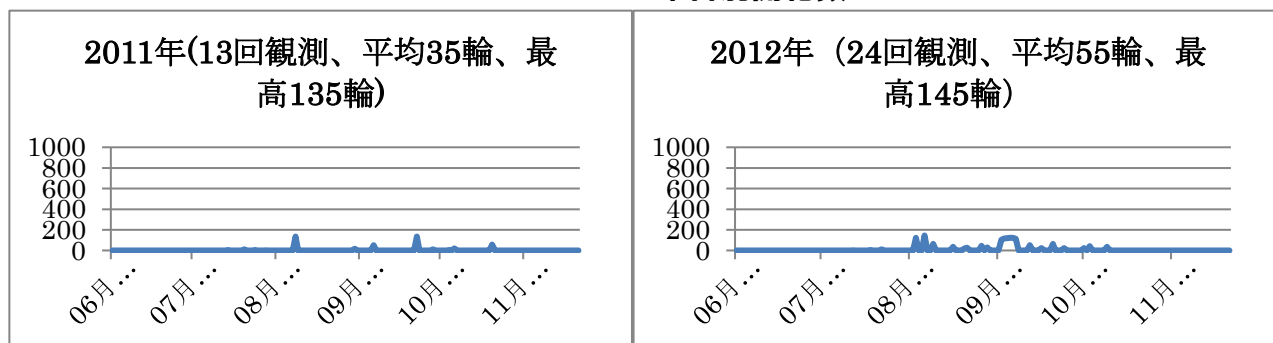
自生個体数の変化



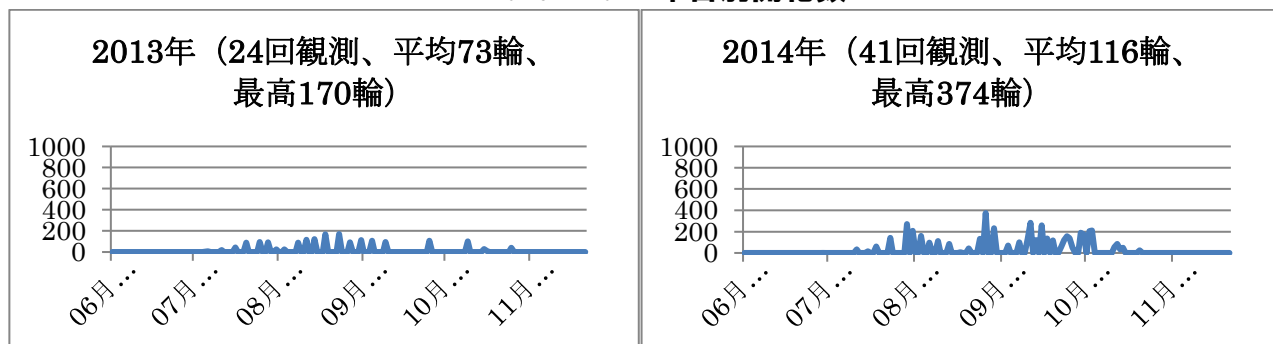
最高・平均開花数の変化



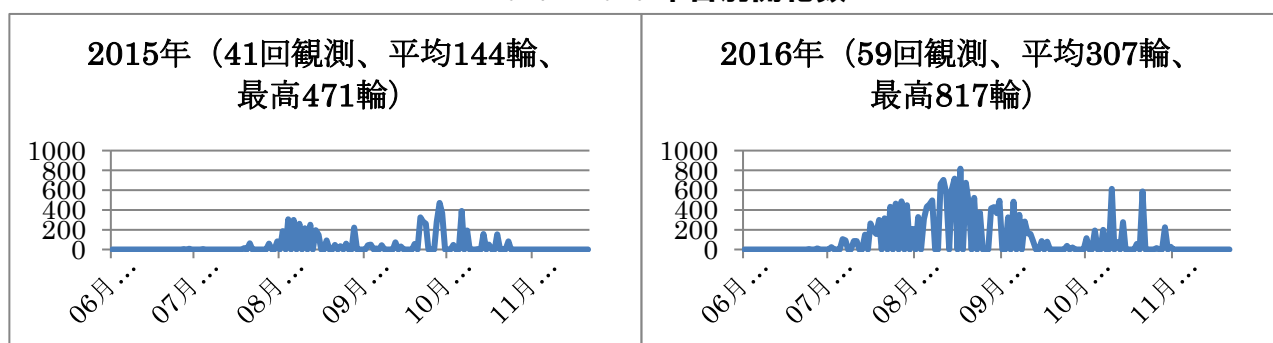
2011・2012 年日別開花数



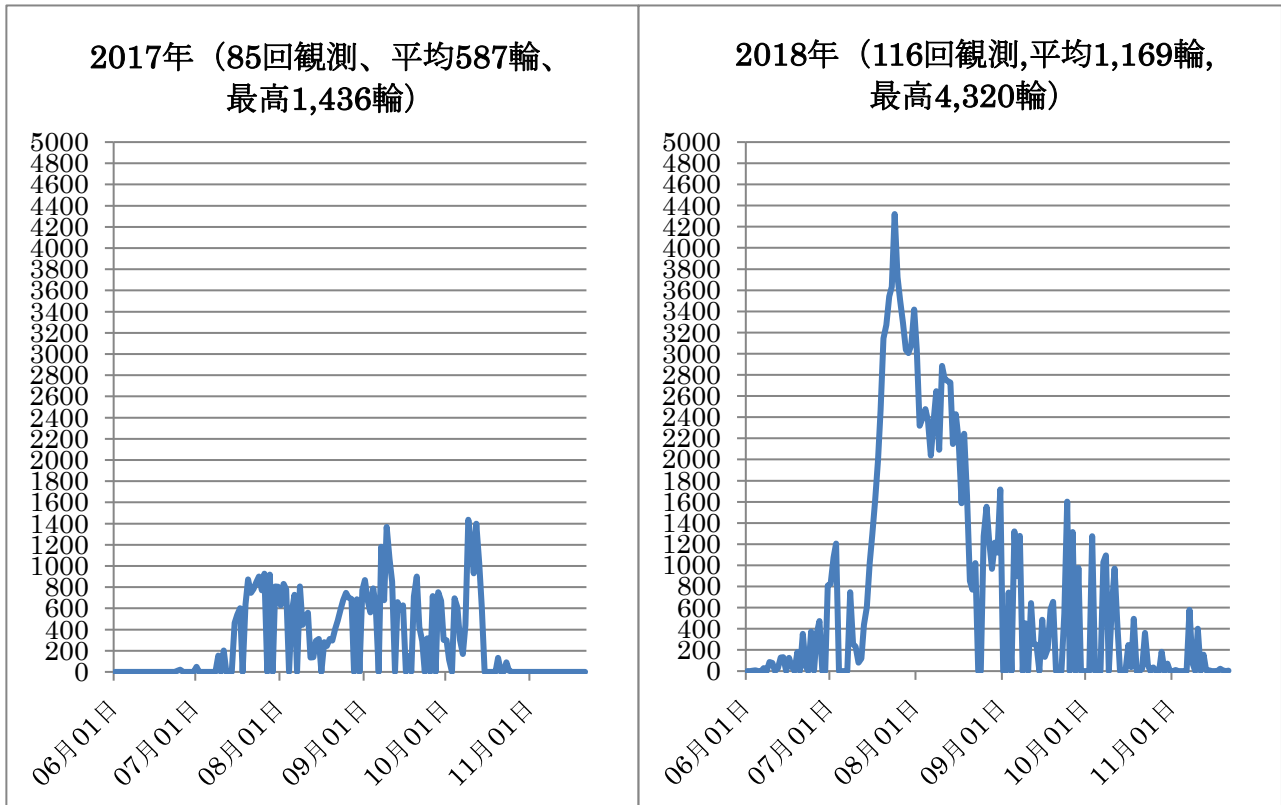
2013・2014 年日別開花数



2015・2016 年日別開花数



2017・2018 年日別開花数



各年の日別開花数は一定ではなく、ピークがいくつも現れるという同様の傾向を示しています。しかもそのピークの出現時期や回数は各年によって異なっています。年間の開花傾向も 2011 年から 2015 年までは増えてはいましたが、増加は緩やかでした。2016 年からは増加率が上がり、2018 年は前年の 2 倍以上に増えました。また、2018 年は開花期間も 6 月 3 日から 11 月 21 日までと、開花の開始が 20 日程度早まり、開花の終了も 20 日程遅くなりました。来年の自生数や開花数がどのように変化するか予測し難い点もありますが、少なくともまだ増加傾向にあると判断しています。観察会にも多くの方が参加していただけるようになりました。



ナガバノイシモチソウ観察会（2018年8月19日）

ナガバノイシモチソウ